研究キーワード
緑地環境, グリーンインフラ, 社会・生態・テクノロジー系, レジリエンス, 気候変動

加藤 禎久

准教授

KATO, Sadahisa

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

https://researchmap.jp/sada_kato

Profile

■主な担当科目　グリーンデザイン, 都市の自然環境形成, 景観計画と保全管理

■研究者略歴

1996（平成 8）年 5月	米国ミシガン大学自然資源・環境学部卒業
2003（平成15）年 4月	米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部実務家養成修士課程修了，MLA
2010（平成22）年 5月	米国マサチューセッツ大学大学院景観建築・地域計画学科博士課程修了，Ph.D.
2011（平成23）年 9月	茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）共同研究員，IPCCチャプターサイエンティスト
2014（平成26）年 3月	国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）リサーチ・アソシエート
2015（平成27）年 3月	茨城大学国際戦略室国際コーディネーター
2016（平成28）年 4月	岡山大学グローバル人材育成院准教授
2021（令和 3）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部准教授
2021（令和 3）年10月	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位　Ph.D.（Ecological Planning）（University of Massachusetts Amherst, USA）

■専門分野　緑地計画学，エコロジカル・プランニング，グリーンインフラ

■現在の研究テーマ
・自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究
・インドネシア・バリ島における伝統的緑地の統合的機能評価に関する研究
・人流データのAI解析に基づく住民の健康増進に資するまちづくり提案

■受賞歴
2003年（平成15）年5月　Landscape Architecture Alumni Award（米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部）
2003年（平成15）年8月　最優秀賞（大学院共同研究部門）（米国ランドスケープアーキテクト協会）
2006年（平成18）年4月　プロフェッショナル・エンハンスメントアワード（NASA-MSU）

■所属学会　国際景観生態学会（IALE），日本造園学会，日本景観生態学会，日本都市計画学会，日本建築学会

■資格　英検１級

Data

■研究等活動

【著書】
・「Changes in the Use of Green Spaces by Citizens Before and During the First COVID-19 Pandemic: A Big Data Analysis Using Mobile-Tracking GPS Data in Kanazawa, Japan」（共著），2022年,『Green Infrastructure and Climate Change Adaptation』, Springer
・「Green Infrastructure Planning for Asian Cities: The Planning Strategies, Guidelines, and Recommendations」, 2021年,『Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities』, Springer
・「決定版！グリーンインフラ」（共編著），2017年, 日経BP社
・「ポスト震災社会のサステイナビリティ学：地域と大学の新たな協働をめざして」（共編著），2014年, 国際文献社

【論文】
・「Human Flow Dataset Reveals Changes in Citizens' Outing Behaviors including Greenspace Visits before and during the First Wave of the COVID-19 Pandemic in Kanazawa, Japan」（共著），2022年,『International Journal of Environmental Research and Public Health』19（14）:8728、DOI: 10.3390/ijerph19148728
・「人流ビッグデータで見たCOVID-19流行後のグリーンインフラや観光地利用の変化」（共著），2022年,『ランドスケープ研究』85（5），585-588
・「Land use management recommendations for reducing the risk of downstream flooding based on a land use change analysis and the concept of ecosystem-based disaster risk reduction」（共著），2021年,『Journal of Environmental Management』, DOI: 10.1016/j.jenvman.2021.112341
・「ニューヨーク市BIG-Uプロジェクトにみる減災デザイン実装展開の枠組み」（共著），2021年,『ランドスケープ研究』84（5），587-590
・「バリ島の伝統的緑地「テラジャカン」についての研究―公共性と「かかわりの正当性」―」（共著），2021年,『住総研 研究論文集・実践研究報告集』第47号, 131-141
・「フィラデルフィア市におけるグリーンインフラ計画と実装の仕組みに関する研究」（共著），2020年,『ランドスケープ研究』83（5），673-678
・「地域開発における伝統的緑地（テラジャカン）の役割：バリ島プンリプラン観光村の事例」（共著），2020年,『専修人間科学論集. 社会学篇』第10号, 35-42
・「Functional Analysis of Telajakan Plants and Space in Northern Denpasar, Bali, Indonesia」（共著），2019年,『Open Journal of Ecology』9（2），15-24
・「ポートランド市のグリーンインフラ適用策事例から学ぶ日本での適用策整備に向けた課題」（共著），2015年,『ランドスケープ研究』78（5），777-782

【報告書】
・「空き地のグリーンインフラ再利用を軸に敷地と都市スケールの取り組みを連動させるにはーアメリカ・デトロイト市の事例からー」（共著），2019年, 都市計画報告集（日本都市計画学会），18, 112-116
・「シンガポールABC水のデザインガイドライン におけるグリーンインフラ適用策の推進手法」（共著），2019年, 都市計画報告集（日本都市計画学会），17, 423-429

■社会貢献活動

・鳥取県景観審議会　委員（2022年1月～）
・岡山市岡山西部総合公園（仮称）活用準備会　副会長（2019年3月～2021年3月）
・「グリーンインフラで災害に強く緑豊かな街づくり」公立鳥取環境大学公開講座2022（2022年12月17日）
・「グリーンインフラ要素の導入提案（まちづくり有志の会による思考実験の発表の一部）」くらしのたねまき市民フォーラム（2020年2月7日）

分野　環境保全・資源管理／農林・水産業／街づくり／地域振興

キーワード　グリーンインフラ／景観／緑地／生態系サービス／防災・減災

自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究

環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
准教授
加藤 禎久
KATO, Sadahisa

SDGs 関連項目

研究内容

人新世といわれる人間の社会・経済活動が広範囲に影響を及ぼす時代、社会的課題として国際的には気候変動対策、日本が直面しているものとしては人口の急激な減少と少子高齢化がある。私は、気候変動により近年増加している豪雨・台風による洪水被害や、気温上昇による熱中症などの健康被害を軽減するための緑地（森林・里山の緑、水田、農地、河畔林、街路樹、公園などの緑）や水辺空間の機能を社会・生態・技術的に総合的に評価し、それをデザインや緑の基本計画などの土地利用計画に活かす「グリーンインフラ」について研究している。従来の土木インフラを補完する形でグリーンインフラを活用することにより、カーボンニュートラルの実現、生物多様性の保全、老朽化したインフラ管理費用の削減、雨水の貯留・浸透促進による防災・減災、SDGs目標を達成する魅力的な地域創生などが可能となる。グリーンインフラの取組に関しては、「グリーンインフラ研究会」の運営委員、国土交通省が主導する「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」の会員として、例えば、グリーンインフラの考え方を盛り込んだ地域の基本構想・基本計画（緑の基本計画、総合計画等）の策定に、専門家としてアドバイスができる。

想定パートナー

関連省庁、地方公共団体、環境コンサルタント、ディベロッパー

応用分野

緑の基本計画や総合計画の策定アドバイス、気候変動対策、生物多様性の保全

取組実績

書籍「決定版!グリーンインフラ」（2017）の共編著

鳥取県景観審議会委員（星空環境保全部会 部会長）（2022年1月～現在）

「グリーンインフラで災害に強く緑豊かな街づくり」公立鳥取環境大学公開講座2022（2022年12月17日）